

平成 17 年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	特 1 3	学校名	県立鹿島養護学校				課程	普通科				学校長名	堆 勝一			
教 頭 名	西田 久美子		佐々木 正志								事務(室)長名	服部 正				
教職員数	教諭	8 1	養護教諭	2	常勤講師	1 8	非常勤講師	8	実習教諭, 実習講師, 実習助手	2	事務職員	4	技術職員等	9	計	124
児 童 生 徒 数	学 部	1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年		合 計	合 計 ク ラ ス 数	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
	小	10	2	7	4	9	3	8	6	6	3	11	8	51	26	2 1
	中	13	4	9	5	9	7							31	16	1 2
高	22	9	22	11	10	15							54	35	1 6	

2 目指す学校像

生き生きとした教育活動を創造し，創意と活力に満ちた学校
 児童生徒の健康と安全を確保し，安心して学べる学校
 保護者と学校が相互に連携・協力し，信頼関係を築くなかで教育活動の充実を図る学校
 特別支援教育のセンター的役割を果たす学校
 全職員によって計画的・組織的・継続的研修に努め，指導力・専門性の向上を図り，児童生徒一人一人の教育的ニーズの応える学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項 目	現 状 分 析	課 題
教育支援	教育相談部門 ・地域における教育相談のニーズがさらに増加することが考えられ，その把握が必要がある。	教育相談部門 ・校内外の教育相談のニーズの把握と教育相談支援体制の確立をどう進めるか。
学習指導	対外支援部門 ・対外支援体制の充実に向け，関係諸機関との連携が十分でない。 ・適切な支援計画を作成し，実践していくために保護者や児童生徒のニーズの的確な把握と適切な実践に努める必要がある。	対外支援部門 ・地域でのセンター的役割を果たすため，関係諸機関との連携をどう進めるか。 ・個別の教育支援計画の作成と活用をどう進めるか。 ・教育課程研究推進校の指定を受け，校内研修体制を整えながら，個別の指導計

生徒指導	・児童生徒の学校生活の充実を図るため、事故防止や安全確保に対する対策を充実させる必要がある。	画を活かした授業づくりをどう進めていくか。
保健安全	・医療的ケア対象児童生徒への適切な対応と、関係機関との連携を図るため、全職員が内容を十分に理解する必要がある。	・事故防止の強化と不審者への対応をどう進めるか。 ・医療的ケアに関する職員研修をどう進めるか。
進路指導	・生徒一人一人に合った進路先の開拓のため、現場実習先の開拓と見直しが必要である。 ・個別移行支援計画の充実を目指した取り組みを進めるため、関係諸機関との連携を十分に図る必要がある。	・現場実習先の開拓と関係諸機関との連携をどう進めていくか。 ・鹿行地域移行支援会議の開催と地域資源との連携をどう進めるか。
保護者との連携	・PTA活動への理解を深め、保護者との連携を十分に深めて行く必要がある。 ・児童生徒がそれぞれの地域社会のなかで豊かな生活を送れるように支援する必要がある。	・PTA活動への支援をどう進めるか。

4 中期的目標

<p>個別の教育支援計画の作成により、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた教育の充実に努める。</p> <p>関係機関の連携に努め地域の特別支援教育のセンター的役割の推進に努める。</p> <p>現場実習先の開拓や福祉・労働等関係機関との連携をめざした進路指導の充実に努める。</p> <p>個別の指導計画を活かした授業作りを工夫し、指導力、専門性の向上に努める。</p> <p>保護者との連携により、PTA活動の充実を図り、児童生徒の豊かな地域生活をめざす支援をする。</p>
--

5 本年度の重点目標

重点目標	具体的目標	達成状況
一人一人の教育的ニーズを踏まえた教育内容の充実	・個別の指導計画を活かした授業づくりを具体的に実践する。	
地域の特別支援教育のセンター的支援体制の整備	・就学前障害幼児の支援体制の設置やあり方について、関係機関との連携を図る。 ・小・中学校の校内特別支援教育体制との連携による特別な教育的支援を必要とする児童生徒への支援のあり方について、関係機関との連携を図る。	
家庭や福祉・労働等関係機関との連携協力による進路指導体制の確立	・家庭や福祉・労働等関係機関との移行支援会議を定期的に設定し、連携協力を進める。	
全職員参加の校内の研究体制の確立と、日々の指導実践の中からの課題把握と授業を通しての実践研究	・学校の課題等とに関連をもたせた校内研究を推進し、学校全体のレベルアップを図る。	